

サロベツエコネットワークの長谷部と申します。私たちはサロベツを中心に環境保全活動等を行う団体です。

私たちは風力発電事業そのものに反対していません。ただし、サロベツ周辺は渡り鳥の国際的に重要な経路に位置し、国立公園やラムサール湿地があるので、野生生物や景観への影響を考慮し、地域の住民・団体や利用者と十分な協議を行った上で、適切な場所で事業を行って欲しいと考えています。

今回の浜里地区の17基の事業地は国立公園に四方を囲まれた飛び地にあり、海岸砂丘林や海岸草原から成る、本来ならば国立公園に編入されるべき場所にあります。浜里地区では砂の採取により砂丘林や海岸砂丘の環境が損なわれてきましたが、渡り鳥や希少な鳥類が利用している面でその重要性は今も変わりありません。隣接する東側には湿原にとって重要な砂丘林があり、国立公園の中でも最も重要な特別保護地区に指定されていますが、ここの境界線上に風車が計画されています。国立公園の特別保護地区の周辺には緩衝帯が設けられるべきですが、当地区は幅が狭く十分な緩衝帯を確保することができません。

浜里地区から砂丘林を越えた東側にはサロベツ湿原が広がっており、幌延ビジターセンターやそこから長沼やパンケ沼にかけて伸びる木道があります。パンケ沼から西側を眺めると人工物が何もない湿原と砂丘林、利尻富士が見える景観が広がっています。これらのなにもない景観はサロベツの国立公園を代表するものであり、毎年多くの利用者が訪れ、何度も訪れる人もいます。特にパンケ沼は全国規模の写真コンテストで最優秀作品が出るほど夕日が有名な場所であり、カメラマンによる夕日撮影ツアーが開催されています。この優れた景観の中に砂丘林から突き出る形で一つでも風車が建設されると、国立公園としての資質が大きく損なわれます。また、今後エコツアーなどを行うための観光資源にも影響を及ぼします。

浜里地区周辺には天然記念物のオジロワシが繁殖しており移動経路として頻繁に利用しています。秋から春にかけてオジロワシ・オオワシが砂丘林や海岸を移動経路として利用しています。草原性の鷹であるチュウヒはえさ場として海岸草原を頻繁に利用しています。春と秋の渡りの季節にはガン・ハクチョウ類が渡り経路として集団で通過しています。海岸沿いは小鳥の渡りの主要な経路ですが、その実態はあまりわかりません。さらに、宗谷地方では浜里以外にも数百基の風車の建設が予定されており、それらを合わせた全体的な影響については全くわかっていない状況です。鳥類への影響は風車への衝突だけでなく、渡りや移動経路が変更による影響も懸念されます。従って、小鳥の渡りや移動経路の変更による影響を科学的な見地から明らかにすべきである。

コウモリ類は夜行性であるため、その影響について鳥類よりさらにわかっていない状況です。

生物への影響だけでなく、風車や作業道の建設により残されたわずかな砂丘林がさらに減少することにより、砂丘林の沼や湿原への影響が懸念されます。

以上から、浜里地区における事業は、鳥類などへの影響に加えて景観という国立公園の資質を大きく損なうという点で、宗谷地方周辺で計画されている風力事業の中で、最も不適切な事業と言えます。事業者が提案した事業地内の配置変更や景観配慮などの案では、以上に挙げた問題を払拭することはできません。このため、事業者には浜里地区における事業計画を撤回し、影響が少ない地域で再度計画を立てることを求めます。

事業による影響だけでなく、事業の周知の面でも問題があります。この事業の環境影響評価図書が閲覧しにくいことや住民説明会が参加しにくい状況だったため、事業の内容の理解や評価が難しくなっています。それどころか、こちらで調べた限りでは、事業そのものを知っている一般住民が1人もいない状況でした。残念ながら、住民の理解を得ることを目的としている環境影響評価の制度が十分に機能していない状況です。日本国の財産である国立公園の重要な資質である景観が損なわれることが懸念されている以上、説明や協議の対象が地元だけではなく、利用者を対象とした全国的な議論を行う必要があると考えます。しかし、これについては全く行われていません。このため、事業実施後に大きな問題が起こることが懸念されます。事業の問題点の周知を行い、事業の考え直すための署名を募ったところ、すでに300名ほどから署名が集まりました。私たちは今後もこの活動を継続することにより、より多くの賛同を得たいと思います。

風力発電に頼らなくとも、幌延町には他の地域にはないサロベツの自然があります。この自然はガイド・夕日・カヌー・野鳥・フットパスなど多くの人を呼び寄せる観光資源になる大きな潜在性を秘めています。浜里地区では、豊富町で行っているような自然再生事業を行うことも可能です。サロベツの価値は人工物がなにもない広々とした景観とそこに生息する渡り鳥を中心とした多くの野生生物にあります。私たちはこの素晴らしい景観と自然を後世に渡って残し、ずっと利用し続けたいと考えています。